

美作国建国1300年記念事業プレイベント
市民芸術劇場103回公演

松竹大歌舞伎 津山公演

7月25日(水) 17:30開場 18:00開演

津山文化センター大ホール

演 目：義経千本桜 三幕

鳥居前・道行初音旅・川連法眼館

出 演：七代目尾上菊五郎（音羽屋）

五代目中村時蔵（萬屋）

四代目尾上松緑（音羽屋）

五代目尾上菊之助（音羽屋）

『義経千本桜』は、『菅原伝授手習鑑』や『仮名手本忠臣蔵』と並ぶ三大名作のひとつで、延享4年（1747）に初演されました。全五段のうち、今回上演される「鳥居前」は二段目、「道行初音旅」と「川連法眼館」は四段目にあたります。狐忠信を中心にして、狐親子の情愛と人間への義理を描く幻想的な物語です。荒事や所作事をはじめ、狐言葉や早替り、階段抜けなどケレン味溢れる趣向が見どころとなります。義太夫狂言の名作をお楽しみください。

◆鳥居前（とりいまえ）

伏見稲荷の鳥居前では、兄源頼朝から不興を買った源義経の一行が都を落ち延びるため集まっている。義経の後を追ってきた静御前は、義経の供を願うが許されず、かわりに義経から初音の鼓を預かる。義経一行が参詣している間に、鎌倉方の捕手が現れ、静御前を捕えようとするが、義経の家臣佐藤忠信が現れ、静御前を助ける。この忠信の働きを褒める義経は、忠信に源九郎の名と着用の鎧を与える。そして、静御前を忠信に預けると、西国を目指して出立するのだった。

◆道行初音旅（みちゆきはつねのたび）

静御前と忠信は、義経が吉野山に身を隠しているという噂を聞き、桜が満開の吉野山までやって来た。忠信の姿を見失った静御前が初音の鼓を打つと、忠信が姿を現す。ふたりは、義経の鎧と鼓を義経の姿に見立てると、源平両軍の合戦で命を落とした忠信の兄を思い出し、涙に暮れる。やがてふたりは、義経が匿われている川連法眼の館を目指していくが、忠信はどこか様子がおかしい。実は、この忠信、初音の鼓を親に持つ子狐が化けた姿であった。

◆川連法眼館（かわつらほうげんやかた）

川連法眼の館では、故郷に戻っていた佐藤忠信が義経を訪ねて来る。そこへ静御前ともうひとりの忠信がやって来るので、義経はこの様子を怪しむ。義経から忠信詮



議を命じられた静御前が鼓を打つと、何処からともなく忠信が現れる。やがて、静御前の詰問に狐の本性を顕した狐忠信は、鼓にされた親を慕ってここまでやって来たと言ふ。これを聞いた義経は、親狐を慕う心情に感じ入り狐に鼓を与える。喜んだ狐は、鎌倉方に味方する悪僧を館に引き入れ、狐の通力で打ち負かすと、自らの古巣へ帰って行くのだった。

■主催／(公財)津山文化振興財団

■料金／S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円

会員4,500円 [全席指定] 残席あとわずか

■プレイガイド／津山文化センター、

ローソンチケット (Lコード：68709)

■問い合わせ

(公財)津山文化振興財団

〒708-0022 津山市山下68 津山文化センター内

TEL.0868-24-0201 FAX.0868-24-1199

E-mail t-arts@tv.t.ne.jp